

生涯学習やまがた



CONTENTS

- ② 特集
社会人の学び直し 岩崎久美子氏
- ⑤ たからびと②
松浦祐治さん（酒田市）
- ⑥ 地域の取り組みを紹介します
鶴岡市・鮭川村
- ⑦ 事業報告
「山形学」フォーラム・支え合いの仕組みづくりを考えるフォーラム
- ⑧ information
歴史文化ゾーンを巡る 2017・洗心庵写真教室・地域学交流集会

文翔館 時計塔 歴史文化ゾーンを巡る⑤

旧県庁舎の塔時計は、日本で現在稼働している中では、札幌の時計台に次いで2番目に古く、文翔館のシンボルでもあります。建物の基礎から塔の避雷針の付け根までの高さは約25メートルで、最上階には大きな時計装置があります。振り子を動かす分銅は、5日に1度、時計職人の方が手動で巻き上げており、現在まで文翔館の時をたゆまず刻み続けています。また文字盤は直径1メートルあり、4面に顔を見せています。

特集 社会人の学び直し

―すべての人が学習機会にめぐり合えるために―

放送大学教養学部教授 岩崎久美子

社会人が、スキルアップや再就職を目指すため、大学などの高等教育機関に開設される講座を利用して、学び直しを行うことが増えてきています。しかし一方では、学習するために必要な情報や時間を得ることができず、学習機会に恵まれないままの人もいます。本号では「社会人の学び直し」に着目し、社会人の学習意欲を高める課題や生涯学習について考えるため、岩崎久美子氏より寄稿していただきました。

社会人の学び直しとは

「社会人の学び直し」という言葉を目にするが多くなりました。本稿では、みなさんと一緒に、この言葉の意味を考えてみたいと思います。

「社会人」の定義を辞書で見れば、「(1)社会の一員としての個人。(2)実社会で活動する人」とされており(新村出編(2008)『広辞苑』第六版、岩波書店)、「社会人の学び直し」という言葉は、学生を除くあらゆる成人が再度大学等で学習することを広く指すものと考えられます。しかし、関連する政策文書を見れば、

「学び直し」とは、実はより狭い意味で、少子高齢化や人口減少を見据えて働き手の確保や、技術の進展等に応じた職業人の再教育を意識したものであることがわかります。

たとえば、「社会人の学び直し」は、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)、及び「日本再興戦略・Japan is BACK」(平成25年6月14日閣議決定)で政府の成長戦略の一環として取り上げられました。そこでは、「社会人の学び直し」は、次のように書かれています。

「スキルアップ・職種転換などのキャリアアップや再就職(出産等により一度離職した女性の再就職など)などの再チャレンジを目指す社会人

の学び直しをはじめ、多様なニーズに対応した教育の機会を充実するなど、大学・大学院・専門学校等の生涯を通じた学びの場としての機能を強化する。(中略)さらに、時間的・空間的制約がなく学ぶことが可能な放送大学をはじめとした通信教育を行う大学における科目の充実等を一層進める。」(第2期教育振興基本計画、p.53・54)

このような文書によれば、「社会人の学び直し」とは、産業界からの要請を受け、職業人のキャリアアップや再教育などを意図したものであり、その根底には、教育や職業訓練は経済発展の原動力であり、経済的生産性の向上に寄与するという人的資本論に基づく経済理論があることがわかります。

そもそも「社会人の学び直し」という考え方は、今回初めてでできたものではありません。かつて、1970年代にOECD(経済協力開発機構)が、「リカレント(回帰、還流、循環)教育」という言葉で、義務教育や基礎教育終了後、必要に応じて、労働などと教育を交互に行う社会政策を提唱しました。「社会人の学び直し」という言葉は、この「リカレント教育」と非常に似ていると言えます。

プロフィール 岩崎久美子

[いわさき くみこ]

国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官を経て現職。

社会教育・生涯学習に関する調査、諸外国の理論紹介などの研究業務の後、現在、成人学習の現場である放送大学で教育や実践に携わっている。

社会人の学び直しの場

それでは、社会人はどのような場で学ぶものなのでしょうか。「社会人の学び直し」の文書において、主な学習の場として考えられているのは、大学、大学院、短期大学、専門学校といった高等教育機関です。たとえば、「社会人の学び直し」を推進する方途として、文部科学省は、平成27年に、大学、大学院、短期大学、専門学校などで社会人が実践的・専門的学び直しができる「職業実践力育成プログラム」認定制度を創設しています。このプログラムのパンフレットを見れば、①修得可能な能力を具体的明確に設定 ②関連分野の企業等の意見をとり入れたカリキュラムを策定 ③実践的・専門的授業の実施 ④修了者のキャリアアップの状況や修得した能力等の成果を公表 ⑤社会人

が受講しやすい環境の整備、といった項目が並んでいます。社会人が仕事を継続していく上で、不断の学習が必要ということなのでしょう。

1990年代のバブル崩壊以降に育った世代は、終身雇用制を前提とせず、転職の可能性も含め、自分の雇用可能性（エンプロイアビリティ）や労働市場での価値に敏感とされています。一方、企業にあっても、企業内研修という形よりも、個人のニーズにあった職業実践力育成を高等教育機関が担ってくれば、人材育成を外部化し学習を個人の責任に帰することで、合理化を図ることができるのかもしれませんが。このように、「職業実践力育成プログラム」の趣旨は、高等教育機関と企業が連携・協働し、生産的人材育成を目的とした学習の場を提供するものと言えます。そして、このような認定資格などのすぐに役立つ知識の獲得は、実学や即物的目的に対応するもので、教育投資の費用対効果が目に見えやすいものでもあります。

これに対し、地域にある社会教育施設も従来から重要な学習の場でした。山形県であれば、「遊学館」、美術館、博物館、そして地域で活動する公民館、NPOや企業が提供する学習の場もあるでしょう。

社会人が学習を行う場合、「時間が

ない」「費用がかかる」ことが学習行動を妨げる二大要因としてよく挙げられます。国立教育政策研究所がかつて実施した雇用形態別学習需要の調査によれば、正規雇用者の多くは「時間がない」と回答する者が多く、仕事上必要な知識や情報を独学で書籍やインターネットなどを介して学ぶ傾向にありました。一方、専業主婦（夫）は費用のかからない公民館などの無料か廉価な講座などを通じての学習を希望していることがわかりました。退職者なども同様の傾向と推測されます。地域の社会教育施設は、学びたい人々に、このように公共性が高く、費用のかからない様々な学習の場を提供しているのですから、ぜひ利用されるとよいと思います。

放送大学の役割

さて、高等教育機関の一つになりますが、社会人の学び直しの場として、わたくしが所属する放送大学も紹介させていただきたいと思います。

放送大学は、文部省（当時）が「文部省における戦後最大のロマン」と評する生涯学習社会に向けた壮大な構想を具現化した機関です。1983（昭和58）年4月に発足、1985（昭和60）年に最初の学生

が入学しました。その後、2001（平成13）年4月には大学院が設置され、博士課程は2014（平成26）年10月から受入れが始まっています。

放送大学のミッションは、生涯学習としての教養教育、大学・大学院教育の提供、既存大学との連携といった三つです。本部は千葉市美浜区にあり、学生が学ぶ学習センター・サテライトは47都道府県を網羅しています。山形県では、山形市、霞城セントラル10階に放送大学山形学習センターがありますので、覗いてみてください。



霞城公園のサクラと霞城セントラル
（写真提供：放送大学山形学習センター）

放送大学には、科目のみの受講のほか、全科履修による大学・大学院課程があります。たとえば、看護師や臨床検査技師の方の中には放送大学で大学卒業資格を取得するとともに、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に申請し学士号をも取得、さらに修士課程に進学する方もいます。

す。また、修士・博士課程では、教員、大学職員、公務員の方々を始め様々な方が研究を行っています。

「社会人の学び直し」というと、前述のように社会人が職業的知識や技能、資格を取得することをすぐに思い浮かべがちですが、放送大学にいますと、実は社会人が最も求めている学習は、自分の人生を振り返ることや、それまでの自分の人生経験を意味づけることではないかと感じる場合があります。たとえば、職業的知識や技術にはすぐには結びつかないような歴史、文学、哲学などの教養教育が、学ぶ動機や生きる糧として社会人にとっては非常に重要な場合も多いのです。また、卒業研究、修士論文、博士論文のテーマを見れば、自分の人生上で直面した課題を解決しようとするものが目につきます。社会人になってからの学びたいとされる内容が、それぞれの人生と密接に結びついていることを感じざるを得ません。



面接授業「湯殿山と庶民信仰」の授業風景
（写真提供：放送大学山形学習センター）

学習成熟・自立度による 機会格差

振り返れば、社会人になってから学びたい人に対し、国や地方自治体は多くの学習の場を整備・提供してきました。特に、生涯学習体系への移行を強く提唱した1985～87年の臨時教育審議会答申以降、地方自治体の生涯学習の基盤整備が進み、若年層に限定されていた大学・大学院は弾力化され、社会人が学びやすい環境がもたらされました。

平成28年度学校基本調査によれば、大学・短大進学率は54・8%と過去最高を記録し、高学歴化もすすんでいます。しかし、このような学習の機会が格段に拡充されればされるほど、皮肉にも表面化したことは、学習を自由に享受できる層とそうでない層の格差ではないでしょうか。

社会人になってからの学習は、個人の判断や決定により行われるものです。生涯学習の基盤整備がなされ、自由な学習機会があったとしても、その情報を入手し、学習を計画し実行できる人ばかりではありません。学校、大学、企業等から離れた学習機会は、個人の学習成熟・自立度により左右されるのです。

かつてグロウ (Grow, G.) という

研究者が、成人学習者を学習の成熟・自立度で類型化しました。それによれば、成人学習者は、①自分で学習内容を決定できず、なにをすべきか教えてくれる教師のような存在が必要な段階②自分で学習内容を決定できる場合もあり、学習への動機づけや自信もあるとはいえ、学ぶ内容について知らない段階③自分で学習を決定できることが多く学習スキルや知識もあるが、学習支援者がいれば特定の内容を深く学ぶことができる段階、そして、④自分で学習を決定でき、学習を計画、実行、評価しようとし、かつできる段階、の四段階にわけられます。

これまでの生涯学習施策は、グロウのいう最終段階、自分で学習を計画、実行、評価できる段階の人々を前提に考えられているように思えます。

すべての人が学習機会に めぐり合えるために

放送大学でわたくしが接する学生は、みな学習意欲が高い人々であり、彼らの学びへの熱心さや成長を知ることにつけ、学習の持つ潜在力を感じさせられます。これらの学生は、学習意欲、動機、学習マネジメント力を有し、学習を自由に享受できる層といえます。また、「遊学館」の講座に

いらっしやる方々も学習に親和性を持ち、社会的で学習が好きな人々ではないでしょうか。

実は、このように学習機会を自ら享受できる層とは別に、学習の場面に出てこない、あるいは出てこれない層が存在していると思われます。成人になってからの学習は個人に帰属するものであり、強制はできないものです。しかし、特にグロウが示した学習成熟・自立度によっては、学習支援が必要とされる段階の人もいることでしょう。雇用を確保し維持する必要性に迫られ、本当の意味で学び直しが必要な人々は、情報もなく、日々の生活に追われ、学習の場面から取り残されてはいないのでしょうか。学習は、人生への前向きな働きかけと言われるのですが、それができない状況や環境の人々は、実はわたしたちが知らないところでも多く存在するのかもしれないかもしれません。



面接授業「武道のすすめ」の授業風景
(写真提供:放送大学山形学習センター)

「社会人の学び直し」は重要なことですが、その決定を個人に委ねること、個人の知識・技能の総体量

の格差が、学習を介して益々広がっているように感じます。学習弱者とも言える、機会にアクセスできない人々に対し、生きるエネルギーを与え、学習意欲を喚起し、情報を提供、学習を動機づけるなど、社会教育による学習補償・支援のための仕組みづくりが今新たに求められているように感じます。知識社会とよばれる現代は、知識が道具であり資本といえます。このような社会で生きていくには、学習することは必須であり、収入に直結するのですから、学習機会から取りこぼされた人々は社会福祉的なアプローチの対象でもあるのではないのでしょうか。

このように、自分で学習活動を統制できることが、社会が提供する学習機会を享受する前提とすれば、そこに至らない人々に対する学習支援を体系化することは、今後、教育的観点と同時に、社会福祉的観点からも求められていくことでしょう。

アメリカの成人教育の教科書には、学習を計画することは、人生設計と同じであると書かれています。一人ひとりが生を受け、人生をよりよく全うするために、生涯学習の環境整備の先に、行政の働きかけが求められる領域がいまだ存在しているように思えます。

あなた やまがた たからびと

interview

松浦祐治さん 酒田モシエノ大学主催(酒田市)

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー形式でご紹介します。今回は様々なキャリアを積み、庄内の知的好奇心・人生向上欲求を喚起するトークライブイベント「酒田モシエノ大学」を開催する松浦祐治さんにお話を伺います。

「モシエノ大学」とは？

若者が就職先を決める前に資料を見たりして自分なりに考えるわけですが、それだけでどれくらい社会のことや職業のこと、働くということを知ることができるのだろうと疑問に思い、毎月第三木曜日に、私が経営するライブハウスで、社長や起業家、自営業者など様々な職種の人から話を聞いています。仕事内容、成功や失敗、今後の目標、辛いこと、どう乗り越えてきたかなど、その人やその職種でしか経験できない貴重な話をしてもらっています。特に若者、大学生や高校生に聞いてもらい、自分の進む道について考えてもらいたくて始めました。知らない間に、ここに集まったお客さんが感化され、起業や就職のきっかけとなったり、知り合って一緒に働いたり、いるいるなことが動き始めていて驚きを感じています。通常ライブハウスで行っている内容を「出張モシエノ大学」として学校でも行うことができて嬉しかったです。



出張モシエノ大学での松浦さん

「はじめるきっかけは自分の経験から」

自分自身、やりたいことが決められず、せっかく就職した仕事を辞めてしまった1人でした。親が安心するからと市職員採用試験を受け「酒田に遊園地や若者が楽しめる施設でも作ろう」と就職。市や市民のために一生懸命やれる、やりがいのある素晴らしい仕事だと思いましたが、誰にでもできる仕事なら自分がいる必要はない、いざれ昇級してそのまま歳をとっていくのだからと将来が不安になり、自分にはこの仕事は合わないかと2年で退職しました。そして辞めずにいれば家を建てられたのだから、ならば今度は自分が大工になって家を建てようと思い、大工職人に弟子入り。一から厳しく育ててもらいました。やるからには一番の大工になろうと、日々兄弟子と一緒に家を建てていました。5、6年経った時、ライブハウスでライブを観ることにハマっていたんですが、酒田にライブハウスを作った自分が受けた衝撃を地元若者にも見せてやりたいという想いが強くなり、いても立ってもいらなくなくなり、大工を辞めました。音響をどこかで勉強してからとも思いましたが、兄が長年ドラムをしていたので、練習スタジオを経営しながら学んでいくのもいいかなと思って、まるつきりゼロの知識からライブハウスを始めました。

「振り返ると毎日が学び」

正直今だから言えますが、現場で学ぶということは学校で学ぶより数段身に付くのが早いし、相当な経験ができると思います。大工も音響も現場で学んできたので、現場での学びの早さを実感しています。大工時代、職人は目で盗めと言いますが、どれだけ真似ることができか、きちんと完成形をイメージして作れるか、どれだけ時間を短縮できるか、自分自身に身に付くまでひたすらやりました。失敗できないこともたくさんあり、兄弟子には苦労や時間をかけてもらったと思いますが、非常に大事な経験をさせてもらいました。今の自分は、この大工の経験があるからだと思います。ライブハウスの経営では、プロの音響さんのやり方を見たりアーティストに教えてもらったり、恥をかって失敗しながらこまできました。振り返れば毎日が学びで、今も成長段階です。

生きていく上で、自分の目標を明確にして、しっかりと計画して進むのも一つ。明確にできなくてもまずは一歩を踏み出すのも一つ。自分は後者ですかね(笑)。だから苦労もありますが、何かしらを掴んで生きられていると思います。いずれは酒田市や庄内、県内で育った若者が県外に出ても戻ってきたくなるような街にしたいですね。頑張りますよ!!

酒田モシエノ大学ホームページ

<http://moshieno.com/>

地域の取り組みを紹介します

このまちに
注目!

鶴岡市 JA鶴岡女性大学「きらめきカレッジ」

『多様なカリキュラムを楽しく学び、もっと素敵に“きらめいて”』

■ 内容 ■

JA管内の若い女性が、農業・協同組合・暮らし・文化・健康などのさまざまな分野の講座を学習することにより、生活の充実と仲間づくりを目指しています。次代を担う女性リーダーの育成と、JAのファンづくりを目的とし、今年で3年目となりました。2年1期の全10回開催で、講座内容は若い女性の声を聞き、料理講習や陶芸体験、美文字講座など多岐にわたります。広くJAの取り組みを知ってもらおうと、毎回10分程度の「JAの時間」で事業や農産物の栽培についての紹介もしています。今年度は2・3期生23人が受講しています。



■ ここが大変 ■

開催が夜のため、限られた時間で実施すること。対象者を管内の40代までの女性と絞っているため、受講生を集めること。参加者同士が交流する時間がないため、自己紹介ゲームなどの交流タイムを設けました。

■ ここがうまくいった ■

地元農家を講師にお迎えした味噌づくりや、産直野菜を使った料理講習など、農業や食などのJAの特性を生かしたテーマも盛り込むことができました。講座を通して農業やJAを身近に感じていただくことができました。

参加者
Voice

社会人になってからの学びの場として、一度は体験してみたいと思っていた講座を受講することができ、入学して良かった。JAの時間ではJAが幅広い事業をしていることを知ることができた。

鮭川村 鮭川村観光協会

『鮭川村観光ガイド養成講座』

■ 内容 ■

鮭川の良さを実感し、鮭川村を訪れる観光客の皆様に対し、心温まるもてなしのできる観光ガイドの養成を目的に、昨年度から実施した講座です。

講座は、ガイド役としての一般講義と知識を習得する座学とガイドをする現場での現地研修とセットで実施されました。さらに今年度は、小学生の村内めぐりに補助員として実習の経験を積んでもらいました。参加者は、村内だけでなく、新庄市・舟形町・戸沢村からの参加もあり、優良受講者には観光協会より修了証の授与がありました。今後ガイドメンバーとして登録し、活躍していただく予定です。



■ ここが大変 ■

小学生の案内補助員体験では、平日の授業中の開催ということもあり、受講者の確保が難しかったことがあげられます。さらに対象が1年生であり、年齢に合わせた説明の仕方にも苦労がありました。

■ ここがうまくいった ■

現地研修において、単なる解説だけでなく、苦労話や体験談を聞くことができたり、現地の方との交流も深めることができたりと、ガイド養成のみならず、今後への多くの成果を上げることができました。

参加者
Voice

講座を通じて、今まで知らなかった地域の歴史や文化、自然を再発見することができました。今後はより多くの人に鮭川村の良さを伝えていければと思います。

事業報告

平成29年度「山形学」フォーラム「地理・地形で読み解く山形の魅力」

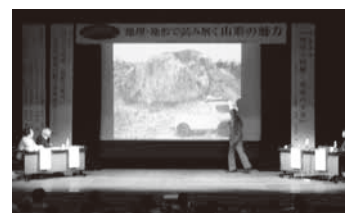
6月3日、「地理・地形」をテーマに220名の参加者を迎え、竹村公太郎氏（日本水フォーラム代表理事）による基調講演と、山野井徹氏（山形大学名誉教授）、長谷川直子氏（お茶の水女子大学准教授）を交えた三者によるトークセッションで、和やかな雰囲気の中、地理・地形の面白さや山形の魅力等を語っていただいた。

竹村氏は、いかに日本人が地形とともに歩んできたかを概説。江戸時代に領地を豊かにするために各地で河川改修が行われ、最上川を含む水運により様々な物や情報が日本中へ運ばれたが、鉄道の出現で河川流域が崩壊し、東京集中が始まり、人口等の膨張の時代となり、効率性のみを求め、国土の荒廃を招いた。日本全体が急激な下り坂にある今、河川流域を中心とする地域を再生し、持続可能な社会を考えなければならないと語った。

山野井氏からは、県内には土台・海・陸と様々な時代の地質があることや、月山、蔵王などの山々の地形や地層を楽しむポイントを教えていただいた。

長谷川氏からは、多様な視座で地域の特徴を学び、応用できるのが地理学であり、「地理女子」など新たなアウトリーチで地理の楽しさを広めていきたいとし、山形を地理学的観点から考えると興味深いと話された。

地形と文明の関係や山形の大地の特徴を学び、大地の成り立ちと暮らしの密接な関わりが明らかになった。身の回りの地形とそこにある物語を発見し、山形に住んで良かったと思えるような暮らしをしたいと感じた。



皆さんからの「生涯学習やまがた」への意見やご感想をお聞かせください！
アンケートにご回答いただきお送りください。
（お手数ですが切手をお貼りください）

広報紙「生涯学習やまがた Vol.11」

①「生涯学習やまがた」を読むのは

☐ 初めて ☐ 時々 ☐ 毎号

②どこで入手されましたか？

☐ 遊学館内 ☐ 公民館・コミュニティセンター
☐ 図書館 ☐ 文化施設 ☐ その他（ ）

③興味を持たれた記事は何ですか？（複数回答可）

☐ 社会人の学び直し ☐ たからびと
☐ 地域の取り組み紹介 ☐ 表紙
☐ その他（ ）

④内容について

☐ 良い ☐ まあまあ ☐ 不満

⑤その他 ご意見・ご感想・取り上げてほしいことなどをお聞かせください。

平成29年度 支え合いの 仕組みづくりを考えるフォーラム

去る7月後半の土日に、県内4会場で行われた本事業は、高齢社会の現状や生きがいづくり・生活支援活動などの必要性を学ぶ入門講座として開催され、今年で3年目となる。

県健康長寿推進課による新しい地域支援事業“地域包括ケアシステム”の説明、東北公益文科大学准教授・庄内オフィス長の鎌田剛氏、新潟市支え合いのしくみづくりアドバイザー・「実家の茶の間・紫竹」代表の河田珪子氏による講演やライブディスカッションが行われた。鎌田氏は、様々なデータや社会背景を踏まえ、自分のための地域を創るため地域に参加する暮らしをしようと呼び掛けた。河田氏は、実際に自身が直面した課題を解決するために支え合いの仕組みをつくってきたこと、その経緯や具体的な手法を語られた。

印象的だったのは、支え合いの活動を始めている、準備を進めているという参加者が、過年度に比べ多かったこと。

具体的な質問が次々飛び出し、各地域で動き出している方々の熱を感じるフォーラムとなった。



事業報告はホームページでもご覧いただけます。

—洗心庵からのお知らせ—

写真教室

一般向け

洗心庵ではカメラの使い方や上手に撮影するためのポイントなど写真の基礎を学ぶ初心者向け写真教室を開催いたします。

日 時 10月29日(日) 10:00～12:00
講 師 阿部直美氏(山形県写真連盟会長)
定 員 15名 参加無料
場 所 洗心庵 多目的ホール
申 込 電話による事前申込

秋の抹茶のもてなし

一般向け

秋の庭園を鑑賞しながら、抹茶を楽しんでいただけます。

日 時 10月22日(日)、11月12日(日)、11月18日(土)
10:00～ なくなり次第終了
菓子代 200円 先着35名様
問合せ 山形県緑町庭園学習施設 洗心庵
電 話 023-664-2800

文翔館・遊学館・洗心庵・教育資料館 4施設合同企画

～歴史文化ゾーンを巡る2017～ 「古絵図から学ぶ山形城下の発展」

一般向け

講演会

山形城絵図「伊藤本」を読む。 —「守春本」と比して—

講 師 市村幸夫氏(村山民俗学会幹事)
日 時 11月11日(土) 13:30～15:30
場 所 遊学館3階 第1研修室
定 員 100名 参加無料
申 込 氏名・住所・電話番号を明記の上、県生涯学習センター(下記)へFAXまたは電話
(申込受付時間 9:00～17:00)

スタンプラリー

期 間 11月3日(金・文化の日)～11月26日(日)

地域学交流集会

一般向け

地域学や地域づくりに関わる仲間が集い、それぞれの活動や地域学のあり方について、交流を通して学びます。

日 時 11月5日(日)午後
会 場 遊学館3階 第1研修室
講師兼コーディネーター 廣瀬隆人氏
(一社)とちぎ市民協働研究会代表理事
事例発表 山形市立商業高等学校産業調査部
西川町歴史文化学習会
申 込 県生涯学習センター(下記)へ

編集後記

近頃、社会人は学んでいないのでは?という疑問から、本紙で社会人の学びについて取り上げるようになりました。この企画、はたして自分は、と振り返る機会にもなりました。皆さんはどうお感じになりましたか。ご感想をお寄せください。(Y)

次回発行は1月の予定です。

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 平成29年9月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36[遊学館]
TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp
URL <http://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>

■開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

■開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

郵便はがき

お手数ですが
62円切手を
お貼りください

990-0041

山形市緑町1丁目2番36号
山形県生涯学習センター 行

差し支えなければお書きください。

ご住所 〒

お名前

ご年代

代

ご職業